

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 NPO 法人可児市国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

- ・地域日本語支援者としてのブラッシュアップ研修
- ・日本語コーディネーターの研修も兼ねる

【前期】10回 地域の日本語教室の現状や先進事例、学習者や日本語を習得し進学した子どもたちの話などを聞き、自分の抱える課題を整理する。

【後期】課題への取組と実践型研修、まとめと発表

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月23日	可児市多文化共生センターフレビア	米勢治子 阿久津エルザ 花木三重子 金子孝司 (市職員) 桑山理子 各務眞弓	1. 事業計画案説明 2. 日程及び講義内容検討 3. 役割の確認 4. その他	今年度は、ブラッシュアップ講座として実施する前期で事例を聞き課題を整理し、後期は課題解決につながる講座と活動にする 前期の内容と講師の選定について議論
8月29日	可児市多文化共生センターフレビア	米勢治子 小島祥美 木村蕃 斉藤元徳 (市職員) 島袋(桑山)理子 各務眞弓	1. 経過報告 2. 今後の取組	受講生の減少や日本語が母語ではない方の参加もあり配慮が必要かどうか検討したが、特に意識しない方向でおこなうことにする。 子どもの支援者と大人の支援者をわけるかどうか。子どもは教科指導もはいつてくる現状がある。

				具体的な講義内容についての議論。
10 月 31 日	可児市多文化共生センターフレビア	米勢治子 木村 蕃 斉藤元徳 (市職員) 島袋(桑山)理子 各務真弓	1. 前期の報告 2. 今後の取組	ボランティアをしようという環境作り、きつけづくりについて 大人の支援者は、子どもの関係の回には参加しないが、繋がっているので参加を呼びかける
3 月 26 日	可児市多文化共生センターフレビア	米勢治子 木村 蕃 斉藤元徳 (市職員) 桑山理子 各務真弓	1. 経過報告 2. まとめと今後の取組	まとめの発表では、解決できた課題と解決できなかった理由、解決できなかった課題と解決できなかった理由、をまとめてもらい報告してもらった。(資料にて説明) 解決できなかったことの多くは、コーディネーター(調整役)がいないということ。最後まで残った受講生には、コーディネーターとして充分やっていける人たちである。

【写真】



3 講座の内容について

- (1) 講座名 「地域日本語支援者養成講座」
- (2) 目標 日本語支援者のスキルアップ研修
- (3) 受講者の総数 18 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
(出身・国籍別内訳：日本人 15 人，中国人 1 人，ブラジル人 1 人，ベトナム人 1 人)
- (4) 開催時間数(回数) 40 時間 (20 回)
講義 32時間 (16回) 実習 8時間 (4回)
- (5) 参加対象者の要件 日本語支援のボランティア経験者
- (6) 受講者の募集方法
チラシ、HP掲載、協会発行会報誌
- (7) 会場
ア 講義 可児市多文化共生センターフレビア研修室
イ 実習 なし
- (8) 使用した教材・リソース
- (9) 講座内容

【前期】時間 10:00～12:00

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
第1回 6月26日	地域の課題と日本語 教室 ・地域の現状と地域 日本語教室の変化 やボランティアの役 割	NPO 法人可児市国際交 流協会事務局長	15名
第2回 7月10日	日本語習得体験談 ・日本語習得から進 学、高校受験に向け て勉強中に、小学校 の通訳サポーターと して、子どもたちへの 日本語指導の経験と 教員免許取得を決意 した経緯などと現在 の大学生活などのお 話	京都外国語大学生 金林マルセロ義高	10名

第3回 7月17日	日本語学習ボランティアに聞く ・可児市国際交流協会の「日曜日日本語教室」「土曜日日本語交流教室」の取組について	可児市国際交流協会日本語教室ボランティア 木村 蕃、花木三重子、横田裕子	9名
第4回 7月24日	日本語学習者の声 ・ナンシー：子どものために日本語習得を決意し、習得してきたことの事例 ・芹沢：中学生で来日（現在小牧市で初期教室の相談員）自分自身が体験した学校での学びと大学進学 of 課程事例 ・牧野：中学で来日（現在高校3年生）来日後同胞の同級生からのいじめを学びの力に変え、高校生となり現在の学生生活などの事例	大城ナンシー 牧野希美	12名
第5回 8月7日	子ども日本語支援者・ボランティアに聞く 大口：バラ教室 KANIでの実践 近藤：虹のかけはし事業2011年度かけはし教室の取組実践 湯浅：過年齢の子ども高校進学支援教	大口裕子（可児市教育委員会「バラ教室 KANI」日本語指導助手） 近藤利恵（可児市国際交流協会虹のかけはしコーディネーター） 湯浅美礼（可児市国際交流協会進学コーディネーター） 横田裕子（可児市国際交流協会学習支援コーディ	8名

	室「さつき教室」の実践 横田：就学前準備指導「ひよこ教室」の実践	ネーター)	
第6回 8月21日	子どもの声を聞く 市内高校生の声 ・日本語能力試験1級取得した、ブラジル人学校の高校生2名 市内公立高校、市外私立高校に通うおもに「バラ教室」通室経験者に日本語習得と支援者について聞く	クノ・ユウタ(イザキニュートン校) リカルド・ケンジ・ナカタニ(イザキニュートン校) 佐野エリキ賢治(中京高校) アモリンアントニー・アルカンタラ(県立東濃高校) ダニー・キミコ(愛知県立犬山高校) バクシカン・カ ril(県立加茂高校) 石橋ゆかり(県立東濃高校) 吉田イングリッドさゆり(県立東濃高校) 新里シュウヘイ(県立東濃高校) 広山リカルド(県立加茂農林高校)	9名
第7回 9月4日	年少者への日本語指導について	松本一子(愛知淑徳大学非常勤講師)	10名
第8回 9月18日	地域日本語教室の役割	米勢治子(東海日本語ネットワーク)	11名
第9回 10月18日	異文化コミュニケーション	小島祥美(愛知淑徳大学准教授)	7名

第10回 10月23日	グループディスカッション	桑山理子(可児市国際交流協会日本語コーディネーター) 各務眞弓(可児市国際交流協会事務局長)	5名
----------------	--------------	---	----

【後期】

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
第1回 10月30日	課題を整理してみよう 前期でまとめた課題を整理し、何を学びたいか課題をしぼる	桑山理子 各務眞弓	9名
第2回 11月6日	会話と教材	米勢治子	9名
第3回 11月20日	教室活動のつくりかた	米勢治子	6名
第4回 11月27日	よみかきの学習支援	米勢治子	8名
第5回 12月11日	実践にむけて よみとかきのグループに分かれ実習	米勢治子	5名
第6回 1月15日	年少者のための教材 ・ブラジル人学校での実践から年少者のための教材紹介	近藤利恵	6名
第7回 1月22日	高校進学につながる日本語支援 ・岐阜県の高校での日本語支援や、他地域の先進事例を交え講義。参加者の個別課題についても意見	松本一子	2名 (インフルエンザ流行により欠席多数)

	交換。		
第8回 2月5日	学校における日本語支援 外国人の子ども100人以上が在籍する集住地の土田小学校の国際学級担当教諭の学校での取組 土田小学校では、日本語だけやるのではなく、すべての子どもが教科書を使用して学んでいるなど実践報告	堀部廣子(可児市立土田小学校教諭)	3名
第9回 2月19日	就学前の日本語支援 子どもたちの将来にとって就学前の日本語指導がいかに重要かを他地域の先進事例などをまじえ講義	小島祥美	6名
第10回 3月11日	まとめと発表 各自が取り組んだ課題にたいし、解決したこととその理由、解決しなかった課題とその理由を個人ワークし、まとめ個々に報告	各務眞弓	8名

2011 年度地域日本語支援者養成講座の様子

6 月 26 日



前期第 2 回 7 月 10 日



第 3 回 7 月 17 日



第 5 回 8 月 7 日



第6回
8月21日



第8回
9月18日



第9回
10月9日



第10回
10月23日



2011 年地域日本語養成講座「後期」

第1回

10月30日



第2回

11月6日



12月11日



1月22



2月5日



2月19日



3月11日



(10) 講座の評価

- ① 受講生に対するアンケート(まとめた資料を添付)
- ② 実施主体からの研修内容結果評価

日本語学習者や、バラ教室出身の高校生たち、日本語能力試験 N1 取得のブラジル人学校の高校生に体験談を聞くことができ、日本語習得の過程での支援者の役割など具体的な役割が再認識出来たのではないかと思います。話に来てくれた人たちは、習得できた日本語を生かして仕事、学業につなげている成功事例であるので、受講者に気づきが多くあり、貴重な時間を共有できた。さらに今回の講座は、ボランティアのスキルアップ研修として実施したが、コーディネーターの育成も兼ねていた。受講生のなかにもコーディネーターとして活躍してくれそうな人材を発掘できたことが成果であった。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

従来の日本語教室を、地域日本語教室として会話中心の教室に変えて実施してきた。支援者として「誰でもいつでも参加可能」とボランティアを募集したが、地域の実状や教室の位置づけなどレクチャーの必要性を感じた。次年度は、実践の場を準備した初期日本語支援者の養成講座を実施したい。

また、平日実施する日本語教室も需要があり日常会話、生活漢字などを学ぶ教室の実施や、春に長期休日を利用し多く来日するフィリピンの子どもたちの日本語教室なども検討したい。

今年度は、文部科学省の虹のかけはし事業も採択され、義務教育年齢を超えた子どもの進学支援教室も充実させたい。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

今回は、前期講義だけではなく、学習者の声を聞く機会を設けとても参考になる話を聞くことができた。「ばら教室」で学んだ子どもたちも多く参加してくれて、出会いや指導者の熱意に支えられた子どもたちの声を聞くことができた。そして、後輩たちにも参考になる話が多く、市の主催する進路説明会への参加も呼びかけることができ後輩にアピールできた。

また、ブラジル人学校の日本語授業を利用し、進路ガイダンスを実施し日本語能力試験1級に合格した子どもや日本の高校に進学した先輩の事例報告や、初めての職場体験で日本語学習の必要性が理解できたというレポート報告があり、ブラジル人学校での日本語指導の情報交換もできた

② 研修後の人材活用

実践希望者もあり、ボランティアとして参加をうながす。

コーディネーターとして仕事を依頼

(12) 今後の課題

最近学習者が減ってきている。※可児市の在住外国人へのアンケート結果を見ると日本語を「聞くこと」ができるのが、39.4%でほとんど不自由しないと答えた人が27.6%であった。

「話す」ことに関するアンケートは「日常会話ができる」と答えた人は、47.4%である。「読む」ことでは、簡単な漢字、ひらがな、カタカナが読める人は、33.4%。ひらがな・カタカナが読める人は、33.2%。「書く」ことは、ひらがな、カタカナが書ける人は36%、簡単な漢字、ひらがな、カタカナが書ける人は、26.6%。日本での生活に必要(429人)であるが、現在日本語を学んでいる人は、139人で、284人の人は学びたくても時間がないと答えている。どこにニーズがあるか、ますます就労条件が厳しくなり、日本語教室の時間設定や内容を決めるにくくなっている。あいかわらず手さぐり状態で教室をすすめている。

※このアンケートの回収結果は、実対象数 2,719人中回収数 644人(回収率23.7%)